

令和5年度第7回藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2023年(令和5年)11月25日(土) 午後1時～午後5時08分

2 場所

藤沢市役所本庁舎5階5-1会議室

3 出席者

(1) 委員 10人

山岡委員長、坂井副委員長、大場委員、関野委員、豊福委員、新實委員、西村委員、樋口委員、細沼委員、森田委員

(2) 中間報告会参加団体 11事業(14団体)

<スタート支援コース>

・江の島ティラノサウルスレース実行委員会 ・サニーデイスーフクラブ片瀬西浜
・高校生ミュージカル Aqua ・藤沢市プレスクール教室 ・あさがおプロジェクト

<ステップアップ支援コース>

・NPO 法人 とことこ ・ふわふわの会 ・特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク

<協働コース>

・特定非営利活動法 湘南食育ラボ/特定非営利活動法人 laule'a
・関内イノベーションイニシアティブ株式会社/株式会社フジマニパブリッシング
・みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ/藤沢市 子育て企画課

(3) 事務局 5人

日原参事、森主幹、緒方専任主査、川島主任、黒川職員

(4) 伴走支援者 2人

関内イノベーションイニシアティブ株式会社 高瀬氏、関尾氏

(5) 協働コーディネーター 2人

4 議 題

- (1) スタート支援コース及びステップアップ支援コース中間報告会（公開）
- (2) 協働コース中間報告会（公開）
- (3) 令和6年度ミライカナエル活動サポート事業について（公開）

5 開催概要

開会

藤沢市市民活動推進委員会

○事務局の日原参事から冒頭に挨拶が行われた。

(山岡委員長) それでは、ただいまから第7回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

本日は令和5年度ミライカナエル活動サポート事業の中間報告会を行います。

初めに、委員会の成立要件について事務局からお願いいたします。

○事務局から成立要件等について説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、団体の皆様に、先ほどもお話のありました私ども藤沢市市民活動推進委員会の委員をご紹介します。順番に自己紹介をお願いいたします。

○各委員から自己紹介が行われた。

(山岡委員長) 続いて、資料確認及び本日の流れについて、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局から資料確認及び本日の流れ等について説明が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（1） スタート支援コース及びステップアップ支援コース中間報告会

1. 江の島ティラノサウルスレース実行委員会

(山岡委員長) それでは、中間報告会に移ります。

最初に、江の島ティラノサウルスレース実行委員会の皆さん、発表のご準備をお願いいたします。

(山岡委員長) それでは、スタート支援コース、江の島ティラノサウルスレース実行委員会の「ティラノサウルスレースの企画・運営」について発表をお願いします。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 我々、ティラノサウルスレース実行委員会の中間報告を始めさせていただきたいと思います。私、藤田です。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 坂本です。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) この2人で説明させていただきます。

まず、当初のスケジュールに対して、達成、未達成の部分です。達成の部分に関しては、第4回ティラノサウルスレースが来月、12月10日に実施するのですが、その告知を10月から始めさせていただいて、エントリー開始ということで今進めております。

あと、ティラノオフ会というのもスケジュールに入れております。もともと秋口にやる予定だったのですが、ハイシーズンということもあり、費用も高くなってしまいうので、どうしようかというところでした。何とか折り合いがついて、12月15日に開催することにはなったのですが、当初の計画からはずれてしまっているので、一応、未達成という感じで進めさせていただいております。

それでは、個別のレースに関して説明させていただきます。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 今藤田からあったように、第4回の江の島ティラノサウルスレースを12月10日に行う予定です。既にエントリーを締め切りまして、エントリー開始後1日で定員の300名を達成しまして、当初の予定どおり300名規模でやらさせていただきます。全国的にも300名というのは過去最大という規模ですので、関係者含めて700~800人、この砂浜周辺に集まるということで盛大に行いたいと思っております。

また、参加者の年齢を見ますと、下はゼロ歳から、上は72歳で、その72歳の方も長野県から参加するといったところです。

あと、参加者の地域を見ますと、やはり湘南かいわいの方が多いということで、特に藤沢の方が一番多い状況になっておりますので、地域に根づいたイベントになってきているんじゃないかなといったこともありますし、今後のイベントに向けても、まずは12月10日を成功させたいということで、事務局も含めてスタッフで今準備を進めております。

また、12月15日に「江の島ティラノサウルスレース交流会」を、新江ノ島水族館の

ご協力を得て開催する予定となっております。現在、申し込みを開始したんですけれども、まだ20名弱ということで、これから予定の50名ぐらいまでふやせればいいのかなどと思っております。

こちらのイベントについては、江の島ティラノサウルスレースのときは、ティラノサウルスのスーツを着て、かぶっている状態なので、なかなか参加者同士のコミュニケーションみたいなものがとれない状況があったりします。こちらは本当に顔を出していただいて、それぞれ1回から3回参加された方もこのイベントに参加しますので、そういったところで交流を深めていただく。それでまたスタッフも含めて交流を深めていくことで、今後イベントの活性化にもつながるのかなと思いますし、その中でもいろいろと課題等も出てきますので、開催できればいいなかと考えています。

今後の課題としましては、やはりスピーカー等のレンタル料だったり、いろいろイベントで、いろんな方に参加していただくので、そういった謝礼等の費用がかさんでしまっているようなところがあるのかなと思います。

あとは、今後ティラノサウルスレースも、一過性のものも多少あるかもしれないので、ブームが過ぎ去った後の活動を今後どうしていくのかということも考えていかなきゃいけないのかなと思っております。そういったところが課題ですので、いろいろと対応していきたいと思っております。

以上となります。

(山岡委員長) 江の島ティラノサウルスレース実行委員会の皆さん、ありがとうございます。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

2. サニーデイサーフクラブ片瀬西浜

(山岡委員長) それでは、サニーデイサーフクラブ片瀬西浜の「安心安全な片瀬西浜サーフ&クリーン事業」について発表をお願いします。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) サニーデイサーフクラブ片瀬西浜の木戸と申します。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) 福田です。よろしくお願いします。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) 我々の活動の中間報告をさせていただきます。

まず、2023年8月から10月までの事業概要と結果、成果、それから、事業を実施しての課題と対応策、それから、今後のスケジュール、伴走支援講座のお礼という形で進

めさせていただきたいと思います。

以前は不定期で続けてきたビーチクリーン活動ですけれども、月2回の定期ビーチクリーン日を決めて活動に取り組み始めたことで、現場の勉強会などを通して、定量的な情報を共有できるようになったと感じています。

例えば季節や天候によるごみの量やごみの種類の変化です。夏は観光客の差に比例してごみも多く、使用済み花火ごみが海岸の段差近くに多くありました。秋の始まりは、南風の強い日は、波が打ち寄せていたラインに沿って、ペットボトルなどのプラスチックごみが多くあることに気がつきました。理由はわかりませんが、ビニール手袋がたくさん漂着していた日もありました。

実施勉強会では、ゲストで参加された方に対し、ごみの指定集積場所をお伝えしたり、ごみが多く集まるエリアやその理由について話し合いをいたしました。

こちらが8月から10月までの活動の内容になります。左上からご説明いたします。

メンバーのボランティア保険に加入しました。

ビーチクリーンに興味がある方との接点がふえたことで、ゲストという形で、10名が活動へ参加いただきました。

ビーチクリーン後に情報交換をして、参加者へ気づいた点を共有いたしました。

10月に、海に浮かぶ浮遊ごみの回収実験に取り組みました。

8月から10月まで、活動PRのためのイベントへ参加し、作成したステッカーを配布いたしました。

サーフィンとビーチクリーン時に着用する視認性の高いメンバー向けの帽子を発注いたしました。

浮遊ごみの回収のためのメッシュ素材のウエストポーチを購入させていただきました。

インスタグラムでの発信を通じて、さまざまな交流の機会がふえ、サニーデイサーフクラブの認知が広がってきました。

また、先日の「広報ふじさわ」へ掲載されたことの反響も早速いただいております。ありがとうございます。

こちらは活動内容の写真です。以前と変わらず皆笑顔で和気あいあいと活動しております。

以上が活動状況のご報告になります。

それから、課題を通しての課題と対応策についてです。こちらは進捗状況確認書をも

とに、福田よりご報告させていただきます。

(サニーデイスーフクラブ片瀬西浜) さまざまな研究でも明らかにされておりますが、海外ごみの7割は町から、つまり、川からやってくると言われております。片瀬西浜の場合は、境川と引地川という川がございまして、流域人口はおおよそ200万人いらっしゃいますので、そちらの町のほうからも、どんぶらこ、どんぶらことごみがやってくるということと、夏の海水浴時期などはポイ捨てごみが多いので、そういったものが目立ちます。

私どものサーフ&クリーン活動は、木戸さんから説明がありましたけれども、そういったごみを拾っていくわけですが、結局何が一番問題かというところ、ワンウェイプラスチックと言われる使い捨てプラスチックです。これが海ごみの70%なんですね。ですから、そういったものがなくなれば一番いいんですけども、私どもがそこに踏み込むことはなかなか難しいと感じております。

したがって、そういったものを地道に拾っていくことと、安心安全な海岸、すなわち、お子さんやワンちゃんとか、ティラノサウルスの方々もそうですけれども、そうやって裸足で歩いても大丈夫なようにしたい。釘とかガラス片とか、そういったものをちゃんと拾うことをみんなでやっていこうというのが基本的な活動です。

今回の助成金でいろいろな支援もいただきまして本当に感謝しております。伴走支援講座でも、特にお客様という視点でとても勉強になりました。どうもありがとうございました。

発表は以上となります。

(山岡委員長) サニーデイスーフクラブ片瀬西浜の皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

3. 高校生ミュージカル Aqua

(山岡委員長) 次に、高校生ミュージカル Aqua の「高校生ミュージカル@地域部活」について発表をお願いいたします。

(高校生ミュージカル Aqua) 皆さん、こんにちは。高校生ミュージカル Aqua の藤田です。

(高校生ミュージカル Aqua) 市川です。よろしくお願いします。

(高校生ミュージカル Aqua) 本日はこちらの流れに沿って進めさせていただきます。

初めに、Aqua についてです。Aqua は、藤沢市を中心に活動する高校生のミュージカル団体で、現在 15 名で活動しています。湘南、鎌倉、光陵など、学校が違う高校生たちが何か表現したいという共通の思いを持って集まりました。練習や団体の運営を高校生自身で行っています。講師の方や地域の方々と一緒に、公演に向け、日々活動しています。

次に、これまでの活動についてです。立ち上げ当初のスケジュールです。変わった点は、脚本や大道具の制作が、2～3カ月ほど遅れているということ、当初より多くのイベントに参加しているということです。

6月です。イベントに向け、ダンスや歌の練習、また脚本制作を開始しました。

7月です。脚本の完全オリジナルの難しさに悩み、何度もミーティングを重ねました。

8月です。8月末には湘南台駅のイベントに参加しました。お客さんの前でパフォーマンスをしたのが初めてでしたが、パフォーマンスの後にはとても大きな達成感がありました。

9月です。新メンバーが3人ふえ、出演メンバーがこれで確定しました。

10月です。イベントに向けた練習や脚本ミーティングなどを重ねました。

11月です。4つのイベントに参加させていただき、11月からは、練習も週に3回から4回ほどにふやしました。1つ1つのイベントを通して舞台に立つ喜びを感じたり、大人の方やプロの方々と接することで、たくさんの学びがあったと実感しています。

(高校生ミュージカル Aqua) 次に、今後の活動についてお話ししたいと思います。現状、本番公演に向けての練習が大幅に遅れてしまっています。ですが、これからその遅れを取り戻して、予定どおり3月30日にオリジナル脚本のミュージカル上演を実施しようと考えています。

まず、12月には、二泊三日の強化合宿を行う予定です。そして1月以降は、練習頻度をさらにふやし、本番公演に向けて、本格的な練習をしようと考えています。また、脚本、大道具等の制作も並行して地域の方々と一緒に行っていきたいと考えています。

次に、Aqua の抱える問題、それに対する対応策です。以下の3つの課題点が上がっています。

1つ目は、練習時間の不足です。Aqua は運営を高校生自身で行っているため、その仕事量が多く、ミュージカルの練習に時間を費やせていません。また、個人の生活にも影響が出てしまっています。

これに対する対応策としては、仕事の分担・効率化として、これからの見通しを立て、効率的に仕事を行っていきます。また、高校生のマネージャーという存在ができたので、その方を中心に制作チームをつくり、そこに仕事を分担して、各自の負担を減らすという形で考えています。

2つ目は、専門的知識の不足です。専門的知識を持つ方とのつながりはあるものの、すごく断片的なもので、すぐには頼りづらいといった状況です。

これに対して、私たちの公演に対する「想い」や日々の活動などをもっと教師の方にも共有し、これからも密にかかわっていくという形です。

3つ目が、制作資金の不足です。今までは企業から「協賛」をお願いするという形でやっていたんですが、これからは「寄付」という概念に変え、私たちの活動を応援したいと思ってくださる方々から寄付を集めるという形でやっていこうと考えています。

最後に、今後の目標や活動についてお話しします。ミュージカルをやりたいという気持ちから始まったこの活動は、歌やダンスのスキルだけでなく、おのおの的精神的な成長にもつながっています。本格的なオリジナルミュージカルの上演に向け、私たちらしく今まで以上に練習を楽しくこれからも頑張っていきたいと考えています。

これで中間報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(山岡委員長) 高校生ミュージカル Aqua の皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

4. 藤沢市プレスクール教室

(山岡委員長) 次に、藤沢市プレスクール教室の「藤沢市プレクラス教室」について発表をお願いします。

(藤沢市プレスクール教室) それでは、藤沢市プレスクール教室の中間報告をさせていただきます。私は加藤真帆子と申します。

(藤沢市プレスクール教室) 市川ジョバンニです。よろしく願いいたします。

(藤沢市プレスクール教室) まず「プレクラス実施準備」についてお伝えします。7月からガイドブックの修正をいたしました。委員の方々にはこちらにございます「やさしい日本語」の冊子と、5言語に翻訳したものを5つご用意いたしましたので、ごらんになっていただければと思います。今回修正したのは、中学校の事項を加筆したというのが大きな変更点です。

また、8月から周知をこちらの課に依頼しまして、チラシの配布などもいろいろな方にご協力いただきました。そして私たちの中で、オンラインで打ち合わせをしたりして、例えばこういった学校の準備に必要なものを分担して用意したりしました。

実際に8月にプレクラスを実施しまして、このような方々に参加していただきました。予算、支出、後援などについてもこちらにあるとおりでございます。

実現できたことは、保育課との連携ができました。ただ、課題としましては、周知の準備不足がございました。また、年度途中の児童生徒の編入状況というのは予想が難しく、参加者が少なかったことが大きな課題です。

実際のプレクラスの様子をごらんください。初めと終わりはこのように親子と一緒に活動いたしまして、緊張を解きました。終わりはまた親子で集まって、日本語学習動画を紹介して、お子さんが日本語を発話する様子を、保護者の方も実際に見ることができることが可能となりました。

分かれた後、保護者グループでは、藤沢市のサポート体制について説明したり、ガイドブックを開きながら、言語別に集まって説明しました。こうすることで、前回よりも短く済んだ。通訳すると2倍時間がかかるんですけども、それぞれの言語の方が責任を持って説明をするという形で進めることができました。実際にそのときに保護者の方々に配った資料を委員の方に配っております。

子どもグループの様子です。線や平仮名表、自分の名前のなぞり書きなどを行っている様子です。ほかにも平仮名表の音読なども行いました。そしてこのようにライバル心とか、助け合う心とか、お互いがお手本になるようなゲームなどを通して、子どもたちが意欲的に学習する様子が見られました。

その報告会を18日、先週の土曜日に開いたばかりですので、口頭でご報告させていただきます。

今回の中間報告の資料に「13:30~14:00」とありますが、誤植でして、「13:30」から「14:30」まで、1時間開きました。参加者はこのような形です。

目的としては「情報・課題共有」をすること、そして転入後もサポートしていただけないかということをめざして行いました。

また、今回参加できなかったんですけども、人権男女共同平和国際課から、周知にはご協力をいただいておりますので、今後そういった方々の協力も得て一緒に情報共有をしていただけるといいなと考えております。また、学務課との協働も課題にしており

ます。

課題はこちらのとおりです。

周知のための準備不足がありまして、事務手続や日程決定の経験不足を実感しております。

また、外国につながる保護者への周知をどうすればいいのか、不就園のお子様にはどうすればいいのかというのは、まだ全くわかりません。

また、伴走講座を通して、NPO法人化も考えておりますが、メンバー不足とか、資金調達をどうするかということも、まだ大きな課題です。

そして、通訳などの予算化がとても難しいです。申し込みの人数や必要な言語がわかるのが1～2週間前ですので、そのときに何人、どれくらい必要なのかというのを考えるのが非常に難しいです。

課題の解決に向けて連携を深めること、周知の方法を模索すること、メンバーをふやすことなどを考えております。

以上です。ありがとうございます。

(山岡委員長) 藤沢市プレスクール教室の皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いします。

5. あさがおプロジェクト

(山岡委員長) 次に、あさがおプロジェクトの「東京 2020 オリンピックレガシー継承事業」について発表をお願いします。

(あさがおプロジェクト) よろしくお願いいいたします。「あさがおプロジェクト」の事務局長をしております宮崎名津子と申します。

(あさがおプロジェクト) メンバーの宮崎隆行です。きょうはよろしくお願いいいたします。

(あさがおプロジェクト) 最初にあさがおプロジェクトの説明が書いてあるんですが、これは飛ばさせていただきます。

このように江の島に育ったあさがおを、どんどん種を引き継いでいって、パリに届けようというプロジェクトをやっております。

こちらの補助金をいただく前の4月から6月までの間に、種をどんどん配布しております。種を400パックと苗を300ポットほど配布しておりました。

その後に8月から本格的な活動を始めまして、ワークショップを開催しております。

ワークショップは湘南台文化センターこども館の場所を貸していただいたり、市民活動推進センターのミーティングスペースを占拠しまして、そこでワークショップをやらせていただいた。あと、片瀬公民館の子ども事業である少年少女探検隊の1つのプログラムとして組み込んでいただくことができまして、そちらに参加させていただいて、子どもたちにあさがおを育てていただいたり、押し花をつくるワークショップなどもさせていただいております。

それと、タイムカプセル郵便というのは、自分たちのつくったあさがおのカードを4年後のオリンピックに届くように、その申し込みをするというプロジェクトで、100人の子ども限定でやっています。今55人ぐらいの子どもの申し込みを受けているところです。

特に子どもたちがワークショップに参加してくれていますが、こども館などでやりますと、結構たくさん親子で参加してくださっています。

あさがおのカードですが、あさがおの押し花の裏には選手に向けたメッセージを書いてもらっております。左側がそのメッセージの写真になります。「がんばれ！」などと書いてあったりします。

市役所の横の通路のところであさがおの苗を育てていただくことになりまして、左側がその写真になります。

右の写真ですが、これは鶴洋小学校のご協力をいただくことができたので、それについての説明があります。

(あさがおプロジェクト) 藤沢の地元の鶴洋小学校と鶴沼小学校の校長先生、教頭先生に申し入れをして、1年生の育てたあさがおの種を今回たくさんいただきました。これはもらったときの写真でございます。

担任の先生経由ですが、1年生からは、「パリオリンピックが早く来ないかな」、「楽しみ」、「あさがおが映ったらいいな」、「早く見たいな」と笑顔で言われているということで、我々も早くそこを届けていきたいと思っております。この活動でまたたくさんの子どもの笑顔をもらえたらいいなと思っております。よろしく願いいたします。

(あさがおプロジェクト) 左側は、YouTube等で発信しておりますあさがおの押し花の作り方という映像の1画面です。

右側は、でき上がったあさがおのカードで、まさにパリに持っていかようとしているも

のでございます。

私たちは 2024 枚のあさがおの押し花カードをつくらうとしております。資料に現在 1200 枚と書いてありますが、これをつくったときからもう少し進捗してしまして、今、達成率 80%ぐらいになっています。さらに種の回収は資料に「11 月 3 日現在」とありますが、今現在で 2024 グラム達成いたしました。おかげさまで集まっているところで

す。これからの課題といたしましては、これだけいろんな方に参加していただいて、たくさん集まった種やカードを持っていくことは決まっているんですけども、それをどのようにパリやマルセイユの会場で配るのかというのが、ちょっとぼんやりしているところがあります。現地の方とどうやって交流をしていくかというところをまさに模索中です。

特に子どもたちは、自分たちの種がパリで花開くと思っているわけですね。だから、オリンピックのテレビを見たら、あさがおが映るんじゃないかと考える。私たちもそうなってほしいとももちろん思いますけれども、夏に種を持っていったのでは、咲いてないわけです。咲くのは種の 1 年先になってしまう。その辺も、もう少し前の段階から交流できたりとか、何かいい方法はないかと考えているところです。

これからもどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(山岡委員長) あさがおプロジェクトの皆さん、ご発表ありがとうございます。

それでは、団体の入れ替えをお願いします。

6. NPO 法人とことこ

(山岡委員長) 続いて、ここからはステップアップ支援コースに移ります。NPO 法人とことこの「『Wa project』ツナグ II」についての発表をお願いいたします。

(NPO 法人とことこ) とことこの濱田です。

(NPO 法人とことこ) 萩野谷です。

(NPO 法人とことこ) よろしく願いします。

まず、私たちの定期イベントからご紹介させていただきます。

あおぞらおはなしかいを毎月開催しています。地域の方たちによって、退職後のシニアさんとか、鶴沼中学校出身者、それから映画監督の谷光監督に紙芝居を読んでもらったり、みんなで歌を歌ったりして盛り上げていただいています。

小田急電鉄の藤沢駅から、ロマンスカー姿で、駅長さんとか、副駅長さん、駅員さんも来てくださって、一緒に盛り上げてくださいました。地域の音楽家さんも、紙芝居の効果音などをつけて、一緒に盛り上げていただいている地域交流の場となっています。

とことこ Café は、市民の家で集いの場を開いております。親子さんがメインで来るかなと思いきや、男性が4人集まった日なんかもありました。こちらでほっとひと息ついでいただいております。

コラボのビーチクリーンを毎月開催しております、KFP、それから大学生と一緒にやっております。夏にはワークショップも開催しました。貝がついたスリッパなど、いろんなものが拾えて、楽しみながら環境活動もしています。

夏休みの親子防災教室です。起震車体験と消防署見学をしました。高校生のボランティアさん、それからKFP、サポーターの方と一緒に、100名以上の規模で開催しました。

このとき、ちょうど全国大会が決まった鶴沼中学校のサッカー部の生徒さんに、遠征費用の募金活動もして、約1万円の募金をお渡しすることもできました。

これは近隣のもみじ幼稚園の夕涼み会です。こちらでは防災クイズなども出したり、手遊びしたりして遊びました。

くげぬま探検まち歩きです。私たちは防災についてを結構意識して活動しております。歴史を学びながら、重要文化財に立ち寄って、古民家カフェでお茶をして、災害についても考えながら、鶴沼の魅力を皆さんに伝えて歩きました。

10月、小田急電鉄の片瀬江ノ島駅の改装中のロマンスカーを貸し切りにさせていただいて、親子さんと一緒に秘密の探検隊ということで、とことこ探検隊を楽しんでまいりました。写真ですが、駅員さんと一緒に「Wa（環）」をつくって、私たちも楽しませていただきました。とことこ探検隊のオリジナルバッジというのもつくっていただきました。

10月末のハロウィンパレードです。これは本鶴沼駅前商店街とのコラボイベントです。まず、道がとても狭いので、防犯指導員のハギー（萩野谷）さんから、交通安全や防犯のお話を聞きました。やはり災害時には地域との日ごろからのつながりが何より大切だよということで、地域の方とつながる時間、ふだんの買い物から親子さんでつくっていただけたらと、商店街の魅力もお伝えしました。皆さんすごく大満足のイベントとなりました。このときもKFPの方に見守りパトロールもしていただいております。

鵜沼自治連からお声がけいただきまして、総合防災訓練にも参加してまいりました。ミライカナエルの助成金で購入させていただいたソーラー充電器を、皆さんにお試して使っていただいたりして、日ごろから災害に備えるように意識していただくきっかけをつくれたと思います。

避難時なども、災害に備える中で、やはり大変なときほど笑顔を忘れずにということで、避難所の遊びの提案などもしました。

4月に社会福祉協議会さんの共催でやらせていただいて、後援で開催した映画の上映会がとても好評だったこともあり、鵜沼公民館で、協力という形で携わった映画の上映会の様子です。

Facebook グループ「鵜沼を愛する会 Wa Project」です。2年前に立ち上げて、11月6日現在で 2026 名です。たしか今朝 2045 名ぐらいになっておりました。こちらの SNS でも地域交流をしています。今入院中の方とか、家から出られない方も、こちらの交流の場を使っただけしております。

今後もまだまだこのように地域でつながる笑顔の「Wa」をつくってまいります。いつもどうもありがとうございます。よろしくお願いします。

(山岡委員長) NPO 法人とことこの皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

7. ふわふわの会

(山岡委員長) 次に、ふわふわの会の「発達障がいみんなのあるあるあつめ事業」についての発表をお願いいたします。

(ふわふわの会) ふわふわの会の大家と申します。よろしくお願いいたします。きょう私ども横浜のほうで講座をいたしておまして、スタッフ全員そちらにかかっておりますので、申しわけございませんが、1人で頑張らせていただきます。

これをつくろうというのが、私どもがこちらにお願いしたことです。ところが、実際、始めようと思えば、いろいろな課題が出てしまいました。

まず、1枚の紙で出すという案だったんですけども、私たちは「おもしろいね、おもしろいね」と盛り上がっていたんですが、いざお配りする相手様にこういうものをお願いしたら、却下されてしまいました。というのは、配架とかそういうのをお願いすると、期限がある。結局、100枚もらっても90枚は捨てることになる。今の時代、そ

んな無駄なことをしてはいけない。なるほど。これは結構響きました。

そこで見直しを始めまして、ではどうするか。捨てられないためには、お願いしたところでも、ある程度置いてもらうためにやはり何枚かということで、表紙、1ページ、2ページという形ですが、こんな形で幾つかつくってはどうかと考えました。どうなんだろうなと思って、でも、やってみなきゃわからない。

でも、始めたんですけれども、ここでまた問題が起きた。一体幾らかかるのか。そこら辺もいろいろあったんです。でも、これでいこうということになりました。

これは私たちの内輪の話ですが、ある特徴ごとにまとめてあります。これを見た方が、これはどんなのだろうなということになると、ホームページ上では、これは何グループですというのをしよう。ただ、ホームページを見てくれるかわからないよね。では、この下にも入れなければいけない。だんだんやるのがふえていって、どんどん時間がたっております。

もう一つ、イラストを描いてもらうのを外部にお願いするという案があったんですけれども、私たちの世界は、絵を描いたり、音楽をしたりする方がとても多いんですね。だったら、彼ら、彼女に頼もうよということになったんですが、やはり危惧したとおりになりました。締め切りに返ってこない。そこは今やりとりをしています。

それと、私どもの監修をしてくださっている先生からも、このまとめ方がどうよというのが、今でもクレームが若干来ております。そこで、本当でしたら、きょうお配りしたかったんですけれども、ちょっと遅くなっています。それが現実的な話です。

正直いって、私どもはとても人数が少ない団体です。ましてやこういうことをやったことがない。初めてのことで戸惑ってばかりいて、本当に右往左往しているんです。

ただ、言わせていただきたいのは、すみませんが、ちょっと本筋から外れます。これをやったことで、すごく成果がありました。というのは、みんな集まって、私たち広報で、この日にやりますということだけをお知らせして、フライングぎみで、こんなチラシ(資料掲示)をいろいろなときに出させていただいた。そうしたら、このチラシを持って来てくださる方がいた。私どもは「ごめんなさい、きょうはこれの編集をするので、興味がなかったらお帰りになっていいですよ」ということでさせていただくんですけれども、結構残ってくださった。

こちらにも書きましたけれども、当事者の私たちの話ができる会が欲しいということで、当事者会を来年から始められることになりました。これはこの「あるある」を出し

て、何年か後にこういう成果が上がったらいいなと思っていたことなんですけれども、それが何と、できそうです。

ただ、藤沢は皆さんとても慎重な地域で、恐らくそうたくさんは来てくれない。すごく苦戦する。でも、市の方にもお話しすると、「ああ、それはいいね。やったほうがいいね」とご理解はいただいています。なので、私どもはすごく楽しみにいたしております。

すみません、中途半端な報告になってしまったのですけれども、来年の3月まで頑張らせていただきますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。(山岡委員長) ふわふわの会の皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

8. 特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワーク

(山岡委員長) 次に、特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワークの「マンション運営管理のサポート強化」について発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワーク) 皆さん、こんにちは。湘南マンション管理組合ネットワークの会長をしています藤木でございます。隣は松川理事でございます。よろしく願いいたします。

藤沢市内にはマンションに住んでいる人が人口の約2割おられます。マンションというのは40～50年前からあるわけですがけれども、最近はそのマンションが非常に老朽化したり、住んでいる方が高齢化したりして、マンションの管理がうまくいっていないところがふえております。

そうしますと、マンションがスラム化をして、崩壊をすとか、その中に不良者が住んだり、今いろいろなことで近隣に迷惑をかけるということがあります。こういうことをなくすために、我々としてはマンションの管理の適正化をちゃんとしていこうということで、マンション管理組合に対しての支援を行っている団体でございます。

事業の概要としましては、研修交流会を毎月やっております。それから無料相談会も毎月、藤沢市の推進センターでやっております。セミナーは年3回、ミナパークでやっております。それから、ネット通信を年4回発行しております。

そのような活動をしておりますが、これらの活動の課題として、参加者数がなかなか増加しないということがあります。それから、事業活動の内容があまり認知されていない

というか、市民の方に知られていないというところがあって、参加者が低迷をしております。今後は広報活動をしっかりやっていかなきゃいけないんじゃないかということで、市のホームページにバナーを掲載させていただきました。

これから考えていますのは、アピール力のあるパンフレットを再度つくっていく。今あるものを更新していこうということです。

それから、今はマンション管理組合の交流会等に来ておられる方等について広報しているわけですが、全部で約600組合ぐらいあると思うので、それらに対しても全般的に広報していこうということも検討しております。

あと、行事についてですけれども、開催の回数をふやすとか、開催の範囲をふやすとか、何とかできないかという検討も続けていきたいと思っております。

ネット通信については、現在220ほどを、年4回に分けて、880部配っておりますけれども、これについて読まれているのか、捨てられているのか。配布するだけですので、よくわからないということで、少なくとも会員のメンバーのマンションに関しては、アンケート等をとって、どの記事がいいのか悪いのか、今後どうしてほしいのかというようなことを見据えて、また改善をしていければと思っております。

それから、活動の人材についてです。役員9名のうち、病気の方などもおられまして、今現実には7名の方が活動しておりますけれども、実際に活動してくれる方が、なかなかふえてこないことがあります。これについても活動に賛同して入会していただいて一緒に働いてくれる方を探していきたいと思っております。

活動の費用につきましては、現在活動していただいた方に交通費程度しかお渡ししてないんですけれども、活動の原資というのは会員の会費のみで賄っております、ちょっと滞っているというような状況です。

課題としては、活動への報酬が少なく、財政基盤が弱いということで、入会勧奨を実施して会員をふやす。それから、報酬を払えるような収益事業を今後何とかしていかなければいけないかなというようなことも検討していきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

(山岡委員長) 特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワークの皆さん、ありがとうございました。

以上でスタート支援コースとステップアップ支援コースの全団体の報告が終了しました。

ここで伴走支援講座講師の高瀬さんよりコメントをいただきたいと思います。高瀬さん、お願いいたします。

(伴走支援者) 5分お時間をいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

○事務局から休憩と再開時間について連絡がされた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後1時57分 休憩

午後2時02分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(山岡委員長) それでは、コメントをお願いいたします。

(伴走支援者) 改めまして、関内イノベーションイニシアティブの高瀬と申します。

本日は皆様、プレゼンとそのプレゼンのご準備、お疲れさまでございました。

お時間をいただいてすみません。皆さんめちゃくちゃテンポよくて、大体こういうのは延びるものなんですけれども、むしろ先に進んでいてすごいなと思っておりました。

私から全体のことと各グループのことに関して、少しコメントさせていただきたいと思います。

伴走支援講座は、最初に事務局より少し紹介がありましたが、スタート支援では2回、ステップアップ支援では3回行っております。スタート支援、ステップアップ支援で内容が重複することも多少あるのですけれども、ステップアップ支援の方にはより中長期のことなども考えていただくというような講義も行っておりました。

まず、伴走支援の講座内容もそうですし、伴走支援全体もそうだと思いますけれども、何のために伴走支援をしているかと申しますと、やはり継続をしていただくためであると私は認識しております。

もちろん目の前の活動をするところが日々とにかく今一番お忙しいと思います。ふだんお仕事をされていたり、ご家庭のこともあったり、それと同時並行で地域のこととか、こういった活動をしているというところなので、お忙しいのは重々承知しております。

ただ、目の前のことだけ見ていると、結局自転車操業的になってしまう。だから、もう少し先のことを見据えて活動をやっていきませんか。その一歩として資金的なご提供

も市からもされているし、こういう講座でいろいろノウハウもお伝えしていますよというように感じになります。

ですので、継続のための伴走支援といったときに、実際皆様から課題としても、広報、周知のことと、組織のことをお話しされている団体もあったと思いますし、やはり先のことですね。今やっている活動を次にどうつなげるかという将来のことが、実際 NPO 法人化の話になっているケースもあったかと思います。このあたりに関しては、実際に活動を精力的にされたからこそ次が見えてきていらっしゃるのかなと感じたところです。

それぞれコメントさせていただこうと思います。ティラノサウルスレースさんは、1日で300名集まったのはすごいと思います。レース自体の知名度もすごく高くなっていらっしゃると思いますし、何よりその300名の中に、藤沢の方が結構いらっしゃるところは、すごく希望があると思っております。そこからブームが去った後にどうするかとおっしゃっていたのですが、300名のうちの、特に藤沢の方たちを、どう巻き込んでスタッフにしていくのか。この先の地域活性のメンバーとしてどう巻き込んでいけるかみたいなのが大事なのかなと思いました。

サニーデイサーフクラブさんは、やはり精力的に活動をされていることが十分伝わってまいりました。私自身は環境系の出身でもあるので、非常に関心も高いところではありまして、ごみの7割が川からやってくる。ワンウェイプラスチックが問題だというのをおっしゃっていたと思います。なかなかできることがないかなとおっしゃっていたのですが、結局根本的には拾うことと防ぐことだと思いますので、将来、団体の活動として、日々拾うことプラスアルファ、先がご提示されるようになってくるとすばらしいのかなと、ちょっと壮大なことではありますけれども、思ったところです。

高校生ミュージカル Aqua さんは、こんなに公演する予定でしたっけ？何かすごくたくさん舞台に立たれているようで、学校の勉強は大丈夫ですかというのがまず心配になりました。

それと同時に、マネージャーを据えたというところがすごく大事なポイントだなと思っています。自分たちは演者であり、かつ、また別に事務的なことを担う人を据えるみたいな組織のことを考えられるというのは大事だなと思います。

協賛から寄付に変えるといったところは何でなのかなと思いました。うなずいていらっしゃる委員の方もいるので、後ほど質問があるかと思っています。

藤沢市プレススクール教室さんは、やはり活動を順調に進めていらっしゃるのがわかり

ます。NPO法人化に関しては、今後相談会なども含めてご相談くださるといいかと思
います。

あさがおプロジェクトさんは、現地との交流が課題ということではあるんですけど
も、パリとのコネクションは持たないもので、どうしたらいいものかというところはあ
ります。パリ五輪ももう来年ですので、来年終わった後のことも、少し先を見据えてい
ただくのも必要なのかな。もう考えていらっしゃるかもしれないのですが、ちょっとそ
んなところも思ったところですよ。

とことこさんは、本当にいつも相変わらず精力的でお疲れさまでございます。

ふわふわの会さんは、活動されたことで、次の気づきとか、次のきっかけを得られた
というところが本当に素晴らしいなと思っております。やってみると、やはり次って出
るといふか、見つかるものだなと思えます。

マンション管理組合さんは、ホームページにバナーを載せられたとか、いろいろやっ
ていらっしゃる中で、収益事業の検討とおっしゃっていたかと思えます。講座の中でも
参加費、実際に参加する人からお金を頂戴するというのも1つのアイデアですよとい
うお話もいたしましたので、そのあたりも今後ご検討いただくといいかなと思ってお
ります。

そういうことで、まず私からは以上となります。

(伴走支援者) 関内イノベーションイニシアティブの関尾と申します。ご発表ありがとう
ございました。

時間があるので、私から2点だけお伝えさせていただきます。

高瀬の話もあったように、きょうは非常にいろいろな団体さんのいろいろな課題がた
くさん見えてきたところかと思えますが、課題が見えてきたこと自体は決して悪いこ
とではないですし、やったからこそ見えてきたというところだと思えますので、ぜひそ
の課題の解像度を上げていくことだと思えます。

あと、きょう全体を通じて印象的だったところで、Aquaさんが発表の中で、課題は
この3点ですと整理して、その課題の内容があつて、それぞれの課題に対してこういう
解決策を考えていますと非常に整理されておられました。見せ方の問題ということでも
ありますが、ただ、ああいうふうに整理することで、実際に解決策を実行してみて、そ
の課題が解決できたのかできないのか。できなかつたら、また別のアプローチしてみよ
うというふうに見えてくることかと思うので、ああいう整理は非常に参考になると思

って聞いていました。

あとは、ステップアップ支援コースの中では、私はとことこさんのほうとじっくりとかわらせていただいております。講座の中でも賛同者をもっとふやしたいという課題をおっしゃって、一緒に取り組ませていただいたんですけども、きょう写真で見ていただいたように、とことこさんは本当に非常にたくさんの方がイベントにかかわっておられる。あの方々が深くかかわる機会をつくって賛同者になる。そのフローをぜひ検討いただきたいと思います。

そういう意味では、ティラノサウルスさんが単発のイベントでやられた後に、コミュニケーション、交流の機会を持つ。ああいうサイクルは非常に参考になるなと思ったので、ぜひいろいろな団体さんの活動も参考にさせていただけたらなと思いました。

以上です。

(山岡委員長) 高瀬さん、関尾さん、どうもありがとうございました。

それでは、この後は意見交換になりますので、事務局から進め方の説明をお願いいたします。

(事務局) 事務局よりご説明いたします。

団体及び市民活動推進委員会委員による意見交換をこれから行っていただきます。本日の趣旨は、事業がきちんと成果が出るように、達成できるようにするための意見交換になりますので、委員の皆様と団体の皆様だけでなく、団体の皆様同士の意見交換もぜひよろしくをお願いいたします。

それぞれのテーブルの進行につきましては、山岡委員長、坂井副委員長、関野委員にお願いいたします。時間は午後2時40分ごろまでということでよろしく申し上げます。終了時にこちらでベルを2回鳴らさせていただきます。

事務局からは以上です。

(山岡委員長) あとはそれぞれのテーブルでということでもよろしいですかね。では、よろしく申し上げます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

スタート支援コース・ステップアップ支援コース

グループ別 意見交換

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員からの講評

(山岡委員長) それでは、お時間となりましたので、意見交換の時間を終了いたします。もしまだ終わらないということであれば、ぜひきょうの場が終わった後にでも、また続けてこういうお話の機会を持っていただけるといいなと思います。それもこのミライカナエルのいいところだと思いますので、ブチッと区切ってしまってすみません。

それでは、各テーブルの進行をしていただいた委員から、意見交換の内容について簡単にご報告をお願いいたします。1分程度でということです。

最初に、私のテーブルの内容をご報告いたします。こちらは3団体ともステップアップの団体さんとの意見交換でした。

ステップアップだということは共通なんですが、とことこさんはもう3年間やってこられて、ミライカナエルのベテランみたいな感じです。ほかの2つの団体さんは初年度ということで、全然状況が違ったわけです。

とことこさんに関しては、活動が順調で、この期間中にいろいろな広がりが出てよかったです。他方で、助成金事業が終わった後どうするかということについて今考えていかなければいけないということで、この点について少し意見交換をさせていただきました。

それから、ふわふわの会さんと湘南マンション管理組合ネットワークさんは、6か月か7か月しかたっていないわけなので当然なんですが、始めたところで、随分いろいろな課題が出てきているという状況です。その課題の解決方法も、それなりに見通しはあるわけですが、もうこれで大丈夫という状況でもないで、やはり助成金事業の中でいろいろ工夫をしながら、これから続けていくための方策を探っていかなきゃいけないということが確認できました。

あとは、団体の皆さん同士の意見交換では、活動をずっと続けていく中で、飽きてくるようなこともある。そういう場合はどういうふうになっているのかなど、かなり現場レベルでの情報交換ができたかなというふうに思っております。

簡単ですけども、以上です。

次に、坂井副委員長からお願いいたします。

(坂井副委員長) 江の島ティラノサウルス、サニーデイスークラブ、高校生ミュージカル Aqua と3団体の意見交換をしました。当初思った計画段階と、実際にやってみてど

うだったか。思わぬ成果とか、そういうところもあったのかといったことから話を始めました。

江の島ティラノサウルスさんは、最初は予算を組んだけれども、実際そのとおりの人が参加してくれるのかどうか非常に不安だった。当初100人ということでしたが、今回は1日で300人も集まったということで、結果としてはそのあたりはうまくいった。ですから、補助金事業としては非常にうまくいっている。

ただ、かぶりものをかぶっていますから、お互いに顔がわからないので、顔の見える関係づくりというところは1つ課題としてある。それから、この先のブームが去ったときにどうするかということも、1つ課題としてこれから取り組んでいくということでした。

サニーデイサーフクラブさんは、サーファーのイメージアップも図りたいという思いもあって、活動をされていらっしゃるんですけども、取り組んだことによって、メンバーの意識が変わったということでした。以前以上にモチベーションが高まったといえますか、しっかり取り組んで、この会をちゃんと盛り上げて継続していくんだという参加の皆さんの意識が高まったということで、事業の成果も1つあったんじゃないか。

また、大規模に人数をどんどんふやせばいいと考えているわけではないので、そのあたりは活動の質といえますか、そういうところですか。例えば発表のときにも天候や季節によって海岸に打ち上げられる量や物が変わるというお話もありましたが、その辺の継続的な活動をされながら、発信して、理解を深め、普及啓発していくのがいいんじゃないかというお話もありました。

それから、高校生ミュージカルについては、しっかり取り組んで、途中でマネージャーも入れたりしながら、組織的な強化も図りながら、最後の年度末の発表に向けて、今頑張っている。

協賛を寄付に変えたということですが、企業さんや商店街さんからお金を集めるのがなかなか難しい。ギブアンドテイクで言うと、テイクのところは、あちら側からすると、それに見合うものがなかなかないということが協賛の難しさになっている。そういうこともあって、この取り組みに共感をしていただける団体とか個人とか、いろんな方々からの寄付をお願いしていくという方向性に切りかえてこれからやっていくということなので、その成果にも注目していきたいと思います。

それから、3年生は引退するそうで、1・2年生はできる子は継続していくというこ

となんです、顧問がいないという話もあった。ですから、活動の継続をどういうふう
にやっていくのかをこれから考えていかなくちやいけないということです。

それから、制作資金が非常にかかるということです。節約もなかなか難しく、この
資金を安定的にどう確保していくのかというところも非常に大きな課題であるという話
をしました。

あと、ビーチというものを何か共有できそうだなという話がありました。例えばビー
チクリーンに参加するでもいいし、ティラノサウルスが高校生ミュージカルの舞台にち
らっと参加するとか、ティラノダンスが最初に出てくるとか、そういうのもおもしろい
んじゃないかみたいな団体同士のコラボのような話も少し出ました。

以上です。

(山岡委員長) 坂井副委員長、ありがとうございました。

では、関野委員、お願いいたします。

(関野委員) こちらのテーブルは藤沢市プレスクール教室さんとあさがおプロジェクトさ
んのお話を伺いました。

まず発表順でプレスクール教室さんですが、前回、申請のときの懸念点として、通訳
の手配というところがございました。今回に関して言いますと、通訳できない言語の方
はいらっしゃらなかったもので、そこは今のところ大丈夫だということです。あと通訳関
係のNPOにかかわる人に、もしかしたら対応できない言語の方がいらっしゃったら対
応できるかどうかを聞いてみることはできる状況だとのことです。

委員の方から質問があったことで言うと、やはり周知関連になります。今回、作成物
とか、教室自体はすごくちゃんとしたものができていると思って私も聞いていたん
ですけども、参加者を集めるとき、どういうふうに届けるのかというのが、発表の中
でも課題としてありました。いろいろお話が出たんですけども、子育てメッセの参加と
かで、ママ友さんにつながる機会をふやすとか、あと、その国の人のコミュニティと
か、そういったところとつながることで、参加してくれる人をある程度見つけられ
るのではないかと思います。海外からいらっしゃってここに住んでいる方は、ど
ちらかという周知よりも声かけが有効らしいので、そこのアプローチを模索しな
ければいけないとお考えのようです。

あさがおプロジェクトさんに関しては、発表の中でも課題としていたところ
です。マルセイユというところでどのように展開していくかという模索が主に出た
意見になりま

す。

お話を伺うと、もう既にかなり頑張っておられる。結構めばしいところを「ここら辺はどうですか」と伺うと、大体声をかけていたりしました。プレススクール教室さんからは、別の国際交流基金とか、アプローチをちょっと変えてみてはというご意見もいただきました。

あと、今のところ、花が咲く時期にやりたいと団体さんのほうで考えていらっしゃいますけれども、そのタイミングで間に合わなかったときにどう展開するかも、今の段階ではもう考えておいてもいいのではないかという委員からの意見が出ました。

こちらのテーブルは以上です。

(山岡委員長) 関野委員、ありがとうございました。

以上で意見交換を終了いたします。

進行を事務局へお返しいたします。

(事務局) ありがとうございました。

それでは、スタート支援コース、ステップアップ支援コースの中間報告会全体を通しての講評を山岡委員長からお願いいたします。

(山岡委員長) 団体の皆様、中間発表、意見交換を含め、たいへんお疲れさまでした。

講評ということではなかなか申し上げにくいんですけども、今回このミライカナエル活動サポート事業をことし初めて受けられたという団体さんが結構多く、ほとんどそうだったと思うのですが、実はこういう助成金事業で中間発表をやるという仕組みにしているところはほとんどなく、珍しいと思います。なくはないと思うのですが、これは藤沢市のこのミライカナエル活動サポート事業の1つの特徴だと思います。

やっておられる方からすると、助成金を受けて事業をやっていくことだけでも相当大変です。きょう発表を聞いていただくと、大変だということがわかりますよね。そういう中で、中間でまたプレゼンしなきゃいけないのはさらに大変じゃないか、負担だろうなど、私はそう思っています。きっと皆さんも同じように思っておられるでしょう。「やらなきゃいけないの？」と心の中で思っておられると思います。

でも、中間報告をやるよさというのはあります。やはり事業がずっと進んでいくと、どうしても壁にぶつかったり、課題がでてきたりしますので、途中で自分たちの活動を整理して、振り返って、後半戦どうするかということを考えることができるということです。1年目の団体であれば、2年目以降どうしていくかということも早い段階で考え

られますので、そんな機会になったとすればよかったかなと思います。

ちょうどきょうの発表をお聞きしていても、始まったところでいろいろ課題が見えてきたことがあります。それを冷静に確認できたということだけでも意義があると考えておりますので、そのようにご理解いただければ幸いです。

それから、プレゼン、ご発表いただいたことについては、スタートもステップアップもちゃんと事業が始まって、いろいろ課題はあるけれども、軌道に乗りつつある、あるいは乗っているということで安心しましたし、すばらしいなと思いながら聞いていました。

ただ、私のここのテーブルがステップアップだからということではないんですけれども、やっぱりスタート支援とステップアップ支援は性質が違うと思うのですね。スタート支援はそれで本当にいいと思います。始めてわかることがたくさんあると思うので、あれっ、こんなはずじゃなかったということがきっとありましたよね。そちらのテーブルで今お話もあったように。それでいいと思うんです。それを克服していくというのがまさに事業のスタートだと思いますので、ぜひそれを超えて前に進んでいただきたいなと思います。

他方で、ステップアップ支援のほうは、我々はそれ以上のことを期待しているんですね。もう活動はちゃんとできる状態で、やはり地域に対して成果を出すという段階で、それをさらに1歩も2歩も前に進めていくというのがステップアップなので、ステップアップの団体の皆さんにはもう一踏ん張りしていただきたい状況です。正直に申し上げますと、そんなふうに感じました。

ただ、ステップアップにおいても同じように事業を進めていく中でわかる課題、ぶつかる壁というのは当然あるわけです。それを超えて、自分たちはもうステップアップとして助成事業を受けているわけで、きちんとアウトプットを出す段階にあるんだというところを意識して、この後の活動をしっかり進めていただけるということを期待しております。

我々のことを審査会とかで何かいろいろ嫌なことを言う人だなと思っているかもしれないですけども、私も、おそらくほかの委員も、ステップアップで採択している団体はそれができる団体であって、そういう提案だと思ってミライカナエルの事業として採択しておりますので、ぜひ皆さんには自信を持ってこの後の活動に取り組んでいただければと思います。

きょうは本当にすばらしいプレゼンテーションをどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

(事務局) 山岡委員長、ありがとうございました。

それでは、スタート支援コース、ステップアップ支援コースの団体の皆様におかれましては、ここで本日の中間報告会は終了となります。お疲れさまでございました。

活発な意見交換がされ、今後の事業への反映もされるかと思いますが、支出など事業計画に変更が生じる場合は、必ず事前に事務局にご相談をお願いいたします。また、12月には第1回の相談会がございますので、こちらへのご出席をよろしく願いいたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。朝日駐車場にお車をとめた方は、事務局に駐車券をお渡してください。

委員の皆様におかれましては、これから休憩に入ります。

再開は午後3時過ぎをめぐりできればと思っておりますので、準備が整い次第、開始させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、休憩といたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後2時55分 休憩

午後3時4分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○事務局の日原参事から冒頭に挨拶が行われた。

(山岡委員長) それでは、会議を再開いたします。ここからは協働コース中間報告会となります。

団体の皆様に、藤沢市市民活動推進委員会の委員を紹介いたします。順番に自己紹介をお願いいたします。

○各委員から自己紹介が行われた。

(山岡委員長) 続いて、資料確認及び本日の流れについて、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局から資料確認及び本日の流れ等について説明が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（２） 協働コース中間報告会

１ 特定非営利活動法人湘南食育ラボ・特定非営利活動法人 laule' a

(山岡委員長) それでは、早速、中間報告に移ります。

最初に、特定非営利活動法人湘南食育ラボ、協働相手の特定非営利活動法人 laule' a の皆さん、発表のご準備をお願いいたします。

(山岡委員長) 特定非営利活動法人湘南食育ラボ、協働相手の特定非営利活動法人 laule' a の皆さん、「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」について発表をお願いします。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 皆様、こんにちは。湘南食育ラボ及び laule' a の協働事業ということで、ミライカナエル活動サポート事業で我々は「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」ということに取り組んでおります。

一言で言うと、肢体不自由児のお子様、また障がいによって嚙下の難しい子どもたちに、皆さんと同じようにハレの日、七五三であるとか、クリスマスであるとか、お誕生日会であるとか、家族全員で楽しめるレストランを何とかつくろうということでスタートさせていただきました。

最初は、机上の論理ではないんですけれども、ある程度月日が過ぎればうまくいくだろうというような思いで取り組んでまいりましたが、どういったものが食べられるのか、ペーストの度合いはどうだろうか、専門の方々のご意見を聞くと、なかなか奥が深い。

また、会場の設置も、要はレストランをどこに置くかという問題についても、車椅子がうまく入れるだろうかとか、その施設は、総論は賛成なんだけれども、やっぱりねというようなところもあったりしまして、非常に多くの問題、壁にぶち当たりながら、きょうここまでやらせていただきました。

成果としては、12月10日に何とか第1回目を開催できるまでスタッフ一同頑張ってきてきました。そのあたりをこれから発表者2名のほうで発表させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 私たちは昨年度より「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」として、今、辻の話にあったように、嚥下に障がいのあるお子さんとそのご家族が同じ食事を楽しめることを目標として活動しています。

昨年度はアンケートをとったり、実際に嚥下食を提供しているレストランに出向いての試食など、ユニバーサルレストラン実施に向けた勉強とか、実際にどのようなニーズがあるかなどを調査するという活動を中心に行っていました。

今年度は引き続きメニュー考案や試食に加え、講師の方を呼んでの勉強会、講習会も実施いたしました。現在は12月10日に実施予定のユニバーサルレストランに向けた広報活動を行っています。

一時、茅ヶ崎市にある松下政経塾内の厨房で活動を行っていましたが、藤沢市役所の方のご紹介もあり、藤沢市内に活動場所を確保することができました。その場所は藤沢市大鋸にあるニコズキッチンというレストランで、オーナーの方がお子さんを laule' a さんに通所させているというご縁もあって、今回のユニバーサルレストランが実現いたしました。この実施に当たって、laule' a に通所されている方にもご協力をいただいています。

実際の活動の様子です。こちらは昨年の中間報告会以後に実施した2022年の12月と2023年の2月の試食会の様子です。発色のいい野菜を使用して色味のきれいな食事をどうやったらつくれるかなど、なるべく保護者の方が召し上がる常食と同じような見た目と味を実現するように試行錯誤しながらメニュー開発も行っています。

(特定非営利活動法人 laule' a) このプロジェクトに実際、嚥下に障がいのあるお子さんを持つお母様方にアドバイザーとして入っていただいているのですが、ふだんの食事ですべて使ってしまうというとろみ材を持ってきていただきました。写真にあるものです。こちらを使うとどのようなとろみの状態になるのか、食事がどれくらい滑らかになるのかというのを実際に試していただいて、食育ラボさんにも見ていただきました。

ふだん食育ラボさんには、私たちにお弁当を提供していただいているんですけども、このときの経験から、ふだんの食事がより滑らかになって、口からも食べやすくなったり、胃ろうの注入というシリンジを使って、胃に直接食事を注入することがあるんですけども、そういう注入もしやすくなったということがありました。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) こちらは7月につた一般社団法人mogmog engine (もぐもぐエンジン) さんという団体の方のお2人をお呼びしての講習会の様子です。

お2人とも実際にお子さんが嚥下障がいをお持ちで、当事者の方ならではの悩みなどをもとに、団体を立ち上げて活動していらっしゃいます。

右下の写真にあるお弁当は、実際もぐもぐエンジンさんとお弁当をつくる業者が高齢者の嚥下食をもとに開発していたのですが、その技術をもとにお子様用の嚥下食を共同開発したものです。そのお弁当を当日、参加者、スタッフ全員で試食しましたが、自分たちが食べている食事と遜色なくおいしく食べられる味でした。参加者のお母様たちとの意見交換もすごく活発に行われていました。

こちらが先ほど紹介したニコズキッチンさんです。店舗は2階なんですけれども、車椅子用リフトで入店することができて、店内の通路やお手洗いもバリアフリーに配慮されたものになっています。12月10日に開催予定ですので、その中のメニューは、クリスマスのメニューを想定しています。

(特定非営利活動法人 laule' a) 先ほど黒川さんからお話があったとおり、ニコズキッチンですが、laule' a を利用している利用者さんのお母様が、障がいのある方たちが働くための就労支援のためのレストランとして運営をされています。

今回私たちの laule' a の利用者さんたち、養護学校を卒業された方たちで、当日クリスマスに合わせた装飾品を今製作しているところです。さまざまな障がいのある方たちが社会参加の形として染め物を進めております。生地を染めて、その生地を縫ったり、切ったり、みんなでミシンを使ったり、ハサミを持ったりしています。ハサミを持つこともなかなか難しいんですけれども、みんなで工夫しながら今クリスマスの装飾づくりを進めています。私たちにとって仕事をつくり出すというのはなかなか難しいことで、今回、補助金をいただいたことで、このように社会に参加できる機会、仕事につながるという大きな機会になったことはありがたく思っております。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) こちらが市役所や養護学校、協働コーディネーターの方にも協力を得まして配布していただいたチラシです。このチラシとは別に、「広報ふじさわ」にも今回のイベントを実施するという内容を掲載していただきました。

今後の活動予定としては、12月10日にユニバーサルレストランを実施。その後、2年間の振り返りをして、その後は、ミライカナエル活動が終わった後、どのようにユニバーサルレストランを続けていくのかも検討していきたいと考えています。

(特定非営利活動法人 laule' a) 私たちのほうで今後考える方向性とか、最終ゴールで思っていることなんですけれども、私たち当事者団体だけが頑張るとするのはなかなか難しい。

今回、食育ラボさんに協力をいただきましたけれども、私たち2者だけでこのプロジェクトを進めていくというのはなかなか限界があります。

藤沢市内に、今回の私たちの取り組みをモデルケースとして、私たちが工夫したところを拾い上げていただけるような外食店がふえていくことをめざしています。市内の通常の外食店がミキサーを用意してくれたり、車椅子でも利用しやすい雰囲気があったり、そんな地域社会になっていくことを目指して、引き続き努力していきたいなと思っています。障がいのある方たちとその家族の状況を伝えていくことが私たち laule' a の役割かなと思っています。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 中間報告は以上になります。ありがとうございました。

(山岡委員長) ご発表ありがとうございます。

それでは、質疑応答に移ります。5分間ですが、委員の皆様、ただいまの発表についてご質問いかがでしょうか。

(森田委員) ご発表ありがとうございました。

一番最後のお話で、いろんなところでハレの日を思い思いのレストランでできたらいいなというのは本当にそうだなと思うのですけれども、もしそうであれば、多分この事業の中で、例えばレストランの方をお招きしたり、こんなふうにしたらできるよというような、そちらの提供側に対するアプローチというのも今後考えていただければ、より目標に近づくのかなと思いました。意見でした。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) おっしゃるとおりで、今後そういった方面にも我々尽力しなきゃいけないなというふうには思っております。それと、先ほどらいより発表者から話がありましたように、本当に厳しいというか、やっていて非常に楽しいんですけども、中途半端ではできないことでもありますので、試行錯誤の繰り返しです。最終的に、今回12月10日にやらせていただきますけれども、それが1回きりで終わらないように、継続性が出るように、もっとほかの団体、それから地域社会と連動しないと、これはうまくいかないなと今は考えております。今後も続けていくつもりでおります。

(坂井副委員長) 発表ありがとうございました。

参加した方には多分好評なんだろうなと思うんですけども、リピートの利用は期待できるのかということが1つと、もう一つは、協働事業の補助金は結構金額が大きいですね。2年目で、来年なくなっちゃうということですが、今後の資金についてどん

なふうに考えていらっしゃるのかを伺います。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 本当にそのとおりなんですけれども、やはりそれはもう最初からわかっていたことなので、我々も地域社会を巻き込みながら、寄付を集めながら、これからやっていこうと思っております。また、やっと何とか形になってきましたので、これからホームページを充実したり、現在 laule' a さんのお弁当に関しては、同じメニューなのに 15 段階、刻み食あり、一口大、ペーストの 1、2、3とか、いろいろな種類で注文ができるようなシステムまではつくり上げました。これからは一般に予約をするのと同時に、こういった対応ができるよということを知っていただくために、SNSとか、ホームページを活用する方法も考えていきたいと思っております。

(山岡委員長) 私からよろしいですか。12月10日にレストランでの食事会が楽しみですが、これを配布しての養護学校さんなどの反応はどうかということと、あと、12月10日までもう何日もないんですけれども、それに向けて課題というか、準備すべきことでやらないといけないこととか、どんな状況なのか、教えていただけますか。

(特定非営利活動法人 laule' a) やはりお察しのとおりというか、なかなか広報が弱くて、広く藤沢市民の方たちにご参加いただきたいなというふうには思っているんですけれども、市役所で配布していただいたのと、養護学校と laule' a の利用者の方たちと広報したんですが、まだ数組しかお申し込みをいただけておりません。

先ほどおっしゃっていただいたとおりで、やはりレストランの方々に私たちの活動に関心を持っていただくとか、商工会議所の方とか、いろいろ外食産業にいらっしゃる方たちに関心を持っていただかない限り、当事者団体だけでもがいているにすぎないというのが大きな課題です。

どのようにやっていったらいいのかが、なかなかそこまでたどりつけていなくて、講習会とか試食会をやるたびに、私たちの団体の反省と気づきということで今整理しているところなんですけれども、今思っているところとしては、こういうことをやったということをきちんとまとめることであって、どこかに関心を持っていただけたときに、こんな工夫で進めたということと、また協力してくださる方たちがふえていくことを願って進めていく。今はそういう段階にいます。

(山岡委員長) 5分たちましたので、ここで質疑を終わりにしたいと思います。ご発表どうもありがとうございました。

それでは、発表団体の入れ替えをお願いいたします。

2 関内イノベーションイニシアティブ株式会社・株式会社フジマニパブリッシング

(山岡委員長) 関内イノベーションイニシアティブ株式会社、協働相手の株式会社フジマニパブリッシングの皆さん、「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」について発表をお願いいたします。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 関内イノベーションイニシアティブの神山と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」について説明させていただきます。

この事業は、働き方に選択肢を持ちたいと考え、地域活動に関心のある幅広い年齢層の人を対象とした起業セミナーです。

人材を発掘・育成し、支援機関が連携して必要とされる支援策をステークホルダー内で共有する体制をつくることをめざしました。

ポイントとしましては、コロナを機に多くの人が暮らし方や働き方を見直すようになり、会社員などが地域活動へのかかわり方を模索しています。このプログラムは、そのような人々が地域とつながり、仲間を得る機会とするほか、地域における活動の始め方がわからない人の支援や、自身のスキルを生かしたいと考える人のきっかけづくりにもなることをめざしました。当事業に参加した人々が、ボランティアやNPO、コミュニティビジネスにかかわることで、ソーシャルビジネス分野の人材強化も図れると考えております。

事業内容については次のとおりです。

1つ目が、湘南セカンドキャリア地域起業セミナーです。こちらは受講生募集、セミナー開催。セミナーは全7回で、1回2時間半のものを7回やります。受講生による事業計画を立案してブラッシュアップし、最終的に事業計画を発表します。参加費は1万1000円で、30歳以下は5500円とさせていただきます。

事業内容の2つ目は、支援機関情報交換会です。支援機関情報交換会のメンバーは、湘南信用金庫、かながわ信用金庫、神奈川県信用保証協会、日本政策金融公庫などの金融機関、藤沢市民活動推進機構、湘南産業振興財団、あとは藤沢市市民活動推進委員の皆様にもご出席いただいております。

藤沢市役所の会議室をお借りして行っております。今年度は12月6日に開催予定で、今年度のセミナーの様子とか、受講生の様子をご報告するとともに、意見交換を行いま

す。また、昨年度受講した1期生のうち、起業された方をスピーカーとしてお招きする予定としております。

セカンドキャリアとして地域で起業をめざす人たちには、さまざまな課題意識を持っていらっしゃる方がいます。その課題意識を起業につなげるために、ソーシャルビジネス分野における知識や求められるコミュニケーション構築力、持続可能なビジネスを描き、事業推進するための経営力などを学べるプログラムを用意しました。

今回の受講生は18名です。昨年度は33名でしたので、少し減少してしまっているのですが、こちらは受講料をアップしたことも影響しているかと思えます。でも、受講料が少し高くても受講してみようというふうな思いがある方が集まっておりまして、皆様熱心に受講していただいております。

コミュニティ形成を考えると、33人ですと、少し多いかなという感じがしましたが、ことしの18名だとやや少ない感じもいたします。適正な人数が25人程度なのではないかと考えております。

このセミナーは地域で活動する先輩起業家にご登壇いただいているのも特徴の1つです。具体的な起業エピソードを聞いたり、現地を訪れたりすることで、実際の起業イメージを膨らませることができますし、ネットワークをつくることもできます。

セミナーのスケジュールはこのようになっております。第1回から第3回は座学です。ワークショップなども行い、受講生同士がコミュニケーションをとる時間をとりながら進めていきました。

第3回はセミナー時間が午前でしたので、終了後、ランチを兼ねた懇親会を設け、受講生からも好評でした。

第4回は現場視察でした。昨年度は藤沢駅周辺の現場を視察したのですが、今年度は鵜沼海岸周辺を歩きました。

第5回は再び座学に戻り、第6回は受講生が自分のビジネスプランを発表するプレゼンが始まりました。セミナーはあしたが最終日で、受講生全員がビジネスプランを発表する最終発表です。金融機関の方もプレゼンを聞きにいらっしゃる予定です。

ここからセミナーの様子を写真でごらんください。

第1回は事務局からのオリエンテーションの後、藤沢市職員の黒川さんから藤沢市の現況についてお話いただきました。自分の住んでいる地域について改めて知る機会となりました。

その後、「自治会町内会における活動と現状」と題して、湘南大庭地区自治会連合会会長の細沼恵美子さんからお話をいただきました。ありがとうございました。細沼さんが大庭地区の高校生と行っているカフェ「Liaison」（リエゾン）には、昨年度の本セミナーの卒業生が参加しているとのお話がありまして、地域でのネットワーク形成が進んでいることを感じることができました。

第2回は「地域における起業とは」と題し、産業能率大学教授の中島智人さんからお話をいただきました。

後半は「Why me? スキルと経験の棚卸しワークショップ」と題して、非営利型株式会社 Polaris、市川望美さんからお話をいただき、キャリアストーリーを振り返るワークショップを行いました。受講生同士がお互いを理解する機会となりました。

第3回は中小企業診断士の安永麻実子さんに、「事業計画の作り方」についてお話いただきました。

続いて、先輩起業家ストーリーとして藤沢市に高齢者施設等の拠点を運営する認定NPO法人ぐるーぷ藤、会長の鷲尾公子さんにご登壇いただきました。

第4回は現場視察でした。鵜沼海岸付近を歩き、映画館のシネコヤさん、教育に関するレンタルスペース事業を行っているBE-SPACEくげぬまさん、祖父母から受け継いだ国登録有形文化財の住宅を活用して事業を行っている松の杜くげぬまさんを訪問しました。それぞれの場所で運営している人たちの熱い思いを聞くことができ、受講生の満足度の非常に高い回となりました。

第5回は藤沢市で農業や体験農園コトモファームを営む、えと菜園の小島希世子さんを招いてお話をいただきました。

その後、弊社の代表取締役の治田友香から地域におけるさまざまな起業事例をご紹介するとともに、本セミナーの第1期生の卒業生で、出張寿司職人としての起業を果たしている小川さんから、事業プランや現在の状況をお話いただきました。

第6回は収支計画について、日本政策金融公庫の辻井拓也さんからお話いただきました。金融機関から融資を受けるために必要な収支計画について理解を深めることができました。

セミナー終了後は希望者が残って、最終発表に向けて、個別に相談したり、質問したりする時間を設けました。

受講生の属性はごらんのとおりです。男性がやや多く、50代が中心というのは昨年

と同じ傾向です。今後は幅広い年代にアプローチできたらと思っております。

現在お仕事をされている方も多く、セカンドキャリアがリタイア後のものではなく、現役時代から検討されているものになっていることがよくわかると思います。また、ほとんどの方が藤沢市在住でした。藤沢市の中でも、昨年度はたまたま大庭地区の方が多かったのですが、今年度は辻堂や鵜沼の方が多くいらっしゃいました。

受講生が作成したビジネスプランの内容はごらんのとおりです。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 昨年度の第1期生については、実際に起業している方がいらっしゃいます。

アニマルライフケアというテーマで事業プランを発表した人は、現在、株式会社アニマルライフデザインという会社を立ち上げており、買い主が亡くなった後のペットの飼育に関する事業です。ペットに遺産を残すといったユニークなアイデアから発案されています。

先ほども話に出ました出張寿司職人は、自宅や施設に出向いて寿司を提供するサービスです。高齢施設で寿司を提供してとても喜ばれたという話も聞いており、また、第1期の受講生同士のコミュニケーションの場にもなっています。

スキルアップ・アシスタントツーマン塾は、個性やニーズに合わせた支援をする塾です。

また、かしわ坂茶寮は、足柄上郡山北町の蔵を利用した喫茶店となっております。こういった形で皆さんがやっておられます。細沼さんのところの活動にも何人かが参加しているということです。ありがとうございます。

「課題及び対応策」ということで、去年よりも受講生が減少したことと、起業プランが具体的になっていない受講生もおり、起業への道のりは遠いかもしいと考えています。

年齢層は50代が最も多いのは去年と同じですが、30代以下が1名と若年層の参加が少なかったです。異世代交流の観点からも、幅広い年代にアプローチする方法を検討する必要があると考えております。

対応策としては、個別相談や受講生同士の起業プランのブラッシュアップ会の開催や、受講生のニーズに応じて、先輩起業家や地域資源への連携をサポートするなど、地域間でのコミュニケーションの活性化を図ること、受講生が地域において何らかの活動を始めやすくなるように私どものほうで後押しをするといったことを考えております。

今後の活動ということで、先ほどもご案内しましたように、あしたは最終のセミナーとなり、終了後、受講生の交流会を実施する予定です。

それから、12月6日に支援機関の情報交換会を行う予定としております。今後はやはり受講生同士が交流して自立的に動いていただくように働きかけを行っていかうと考えております。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 以上となります。ありがとうございました。

(山岡委員長) それでは、質疑応答に移ります。委員の皆様、ご質問はありますか。

(関野委員) 発表お疲れさまでした。

昨年の受講者からもう起業されている方も出ているというところと、あと、今年度受講者が減少したとおっしゃっていますが、結構あのお値段だと、18名はかなり集まっているほうかなと思ってしまいます。

助成金が出ている期間に関しては、かなり順調に進んでいて、あした最終的にそこで終了という形かと思います。

事業計画策定時の書類で、3年目以降のアプローチに関して、セミナーの受講者から担い手へというところと、あとは既存機関にノウハウ移転というのを来年以降の動きとして設定されていますけれども、そこら辺はどういう状況かとか、何か変更とかあるのでしたら、それについて伺えればと思います。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 第1期生につきましては、既に昨年受講を終了していますけれども、今スクールアシスタントという形で、第2期生のフォローに入っていたり、交流もしていただいているような状況です。第1期生から第2期生にいろいろ教えたり、会場設営を手伝ったりという形で、受講生から担い手へというふうに進んでいるかなと思っております。

また、来年以降どうしていくかというところで金融機関とか不動産会社のほうに今アプローチを行っているところですが、直接的な協賛というのはなかなか得にくくて、それ以外の例えば会場をお借りするとか、講師で来ていただくとか、そのようなご協力をいただけないかと今働きかけているところです。

(株式会社フジマニパブリッシング) フジマニパブリッシングの三浦と申します。ワインまつりというイベントの実行委員長をやっております、中抜けしてきましたので、こ

の格好で大変失礼いたします。

先ほどの話で、3年後というか、次回以降、この事業自体をどこに移転していくのかみたいな話がありました。当初、実は小田急不動産さんにお声がけをしておりまして、小田急不動産さんの中のいわゆる社内ベンチャーというか、新規創業の事業の中にも組み込んでいただいて、コンテストに出していただいたんですけども、その選から漏れてしまったという経緯がございました。

ですので、小田急不動産さんという流れがなくなってしまうと、新しくどこにお願いをするのかというところは、現状まだ未定ではありますが、何らかこの事業に対して興味を持っていただける方が運営をしていただけるような流れができればいいということで引き続き検討しているところです。

(山岡委員長) 今フジマニパブリッシングさんからお話がありましたが、協働で行うことによって、2年目ということもあるんですけども、協働がどう機能しているのかというのが、今のプレゼンだけだと、極端な言い方をすると、関内イノベーションイニシアティブさんだけで別にできているんじゃないのかなと思うわけです。やはり協働としてやっていますので、そこがこのセミナーとか、あるいは受講生さんたちの起業に向けた活動にどのように貢献して、寄与しているかというところを、1つ2つで構いませんので、教えていただければと思います。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 弊社は横浜の会社ですので、フジマニパブリッシングさんの藤沢でのネットワーク力とか、発信力とか、人脈というのは大変助けられております。

あと、湘南経済新聞というメディアをお持ちですので、先ほど18人の参加は集客としては素晴らしいのではないかというお言葉をいただきましたけれども、フジマニパブリッシングさんから湘南経済新聞に掲載していただいて、それをそのままヤフーのほうで取り上げていただいた。このような広報活動も大変大きな成果につながったのかなと思っております。

あと、「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」というチラシについても、フジマニパブリッシングさんのデザイナーさんにつくっていただきまして、こちらも湘南の魅力を取り入れたものを作成していただいております。拠点もお持ちですので、今後も受講生が集まる場所として機能していくのではないかなと思っております。

(株式会社フジマニパブリッシング) あと、第1期のときの講師選定ですね。地元で実際

こういうことに対して協力的で、さらに実のあるお話をしていただける方をどなたかということで、ラインナップを 10 人ほど出させていただいて、そのうちから講師の方を選んでいただいたという経緯がございます。

なので、運営の部分に関しては関内イノベーションイニシアティブさんが音頭をとって行って、そのバックオフィス機能というか、企画に関してはお手伝いさせていただく。かつ、広報ですね。可能だったら、次を受け取っていただく企業、事業者を見つけ出して、バトンタッチできれば一番美しかったんですけども、そこは当初想定していた事業者さんが難しかったという経緯がございました。

役割分担として、表側に立っている関内イノベーションイニシアティブさんと、裏方をやらせていただいているうちということで、見え方についての強弱があるかなとは思いますが、そういう分担をしているという認識でおります。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

発表団体の入れ替えをお願いいたします。

3 みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ・藤沢市子育て企画課

(山岡委員長) みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ、協働相手の藤沢市子育て企画課の皆さん、「子どもの居場所スタートアップサポート事業」について発表をお願いいたします。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) こんにちは。みんなの居場所・れいんぼ〜かふえの鈴木と申します。

私たちは、藤沢市内で子どもの居場所を始めたい方を主な対象として、ハウツーだけではなくて、支援者のあり方ということを中心に一緒に考える、そんな講座を行っておりますので、そのご報告をさせていただきます。

(子育て企画課) みんなの居場所・れいんぼ〜かふえさんの協働相手という形で一緒にさせていただきます藤沢市の子育て企画課の三膳と申します。

(子育て企画課) 同じく子育て企画課の中野と申します。よろしく申し上げます。

(子育て企画課) 私から、6月から9月に行いました子どもの居場所スタートアップサポート事業の第1期についてのご報告をさせていただきますと思います。

第1期は土曜日の午後という形で、月1回の講座を4カ月にわたり行いました。第

1期の申込者が20名で、うち実際の参加人数は18名になりました。欠席の2名の方につきましては、第2期、第3期に振りかえで参加予定となっております。

また、こちらに書かせていただいた第2期も20名の参加予定となっております。各欠席者につきましてはZOOMでの振り返りや動画での視聴などを活用しまして、全員の方が全ての回を現在受講いただいている状況でございます。

実際に居場所を始めたい方につきましては、個別の相談、コンサルを2回以上行いまして、講座の中では伝え切れなかった内容についてのオンライン勉強会をこれまで2回行っております。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 第1期に参加してくださいました参加者18名のうち、実際に居場所スタートに向けて動き始めている方が4名いらっしゃいます。近隣の市民の家を見学に行ったり、食品衛生責任者講習会を受けたという報告を受けています。

参加者の中には、既に居場所を運営している方も5名おりまして、今回の学びを運営に生かす、または今後私たちの団体とお互いでコラボ企画しようとか、参加者同士でコラボ企画しようなど、横のつながりもできているようです。

また、もっと学びを深めたい、まずは既存の居場所にボランティアで入ってみたいという方が7名ほどです。そのうち2名は、第2期のワークショップの運営サポートに入ってくださいっており、ネットワーク構築業務にも加わってくださっています。第1期のメンバーが入っているLINEのオープンチャットに第2期のメンバーも加わっており、今後第3期、第4期の方なども入っていただきまして、オンラインや対面での交流会などを行いながら、緩やかにつながり合っていけたらと思っております。

今回協働で実施することができたことによりまして、子育て企画課さんはもとより、市民自治推進課の方からも、行政の取り組みを皆さんに直接伝えていただく機会がありました。ですので、参加者の皆さんからも、行政の方から話を直接聞いたのがすごくよかったという声をたくさんいただいています。

また、「広報ふじさわ」で告知できたことにより、男性の参加や企業の方の参加もありました。これは第1期、第2期ともに同じ傾向が見られます。

(子育て企画課) 同じく「協働で行うことの意義」というところで、子育て企画課の市側としても、子どもの居場所を今後ふやしていきたいという考えをワークショップ参加者に直接伝えることによって、これから子どもの居場所を始められる方のモチベーション

アップにつながっていくという点が、1つ協働してよかった点として捉えております。

また、こちらに記載させていただいておりますとおり、居場所の情報の一元化というところで、子育て企画課が所管させていただいている計画の中で、子どもの居場所を計画の指標にしているものがあるのですが、地域に根差した子どもの居場所の活動は、地域に根差しているものの、行政として把握が難しいという面がございます。このワークショップに参加していただいて、子どもの居場所を始めていきたい方については情報の共有もさせていただいておりますので、タイムラグなく活動を把握させていただけるという部分もメリットとして考えております。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 続いて、「課題と対応策」ですが、課題として5つ上げさせていただいております。

まずは講座内容と時間配分です。今回、当初15名の募集予定だったんですが、お申し込みが多かったため、20名にふやして開催いたしました。参加者は18名だったんですが、皆さんやはり思いがある方なので、自己紹介が大分時間をオーバーしました。あと、私たち運営側の各担当もやはり思いがあふれて、それぞれ時間をオーバーするという形となり、初回は自己紹介と7つの習慣の講座をやる予定だったんですが、自己紹介で終わってしまいました。なので、時間を予定どおりやるということと、自己紹介のボリュームが多かったかなというのもあるので、第2期についてはそちらを修正させていただいているところです。

3つ目に、テキスト制作です。当初は1冊のテキストを最初に配布して、それを用いて講座をと考えていたんですが、やはり参加者の顔を見て、様子を見てつくっていきたくて思いまして、まずはDay1の分をつくって講座を行い、同じようにDay2、Day3、Day4というふうに、各回ごとのテキストということで対応させていただきました。これを1～2年の間にまとめて1冊にできればと思っております。

4つ目、ネットワーク構築のところですか。今回居場所を始める方だけではなく、既にある子どもの居場所もまとめた藤沢市の子どもの居場所というものが一元化されたようなネットワークを今後構築していきたいと思っております。今そのホームページなどを作成しているところですが、若干手が回っていないところがありまして、既にされている方への声かけがまだ進んでおりません。こちらは課題かなと思っておりますので、今後手を入れていきたいところです。

5つ目に、夏のマルシェというのを予定しております。参加者の方には、この期

間中に、れいんぼ〜かふえが行っている居場所もしくは既に居場所を週末などにやっているところに見学に行ってくださいねということ伝えておりました。特に夏のマルシェが大きなイベントなので、見てくださいねということだったのですが、今回、8月の第2月曜日が、8月14日のお盆期間に当たってしまったために、参加できる人がなかなかなかった。あと、そもそも夏祭り自体も、ことしは来場者が少なかったんです。なので、その辺の日程を見誤ってしまったかなというのが課題となっております。

ですので、対応策の補足なんですが、ネットワーク関連につきましては、今市内の居場所をリストアップしているところです。これは子育て企画課さんが作成している居場所マップなども活用しながらピックアップしているところですので、個別にアプローチをしていこうと思っております。

また、夏のマルシェにつきましては、土日に開催しているほかの居場所と連携して見学できるようにするとか、何らかの形で補足をしたいと思っております。

今後の取り組みといたしましては、現在第2期がスタートしております。第1期の時間的配分の反省なども生かし、改善しながら進めております。初日は予定どおりのことができてすごくよかったなと思っております。この調子で第3期、第4期と進めていきます。

また、テキストを1冊にまとめること、ネットワークのホームページを公開できる状態にすること、あとは第1期以降の参加者にも4回で全ては伝えられていないので、ブラッシュアップの講座を開催して、学び続けるという仕組みができることも並行して進めていく予定です。

(子育て企画課) 最後になりますが、今後も協働事業として、市側としましても引き続きアイデアを出し合いながら、お互いの強み、特性を生かしながら事業を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 貴重な機会をいただき、感謝しております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(山岡委員長) それでは、質疑応答に移ります。委員の皆さん、質問いかがでしょうか。

では、私からよろしいですか。行政との協働ということで、どんなふうに協働を進められていますか。情報交換とか、意見交換とか、あと先ほどアイデアを出しながらプログラム作成とかおっしゃったんですが、具体的にどんな感じでコミュニケーションをとって協働されているのか教えてください。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 毎月定例会を行っておりまして、そこで予定とやってほしいことみたいな話し合いをしています。特に子どもの居場所マップのところはすごくご協力いただいて、公開されているのをごらんになられた方もいるかもしれないんですけども、小学校区ごととか、どんな居場所ごととかでチェックすると見られるすてきなマップをつくっていただいたので、それを講座の中で参加者さんと一緒に見たり、あと、実際にどこが少ないということもわかるものがありましたので、すごく助かりました。

それと、私も藤沢市で子育てをしていましたけれども、子ども共育計画などの存在をあまり知りませんでした。その辺を丁寧に教えていただいたので、ただ居場所をふやすというわけではなくて、こういう調査があって、こういう必要があってというところを直接伺うことができたのはすごく大きかったなと感じています。

(山岡委員長) 月1の定例会以外のコミュニケーションは、大体どれぐらいの頻度なのか。メールとかですか。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) メールは結構頻繁だったかなと思います。会議室をとるとか、そういうことでも、日程調整とかも含めてです。出だしのころは、週に1回、こんな動きをしましたという進捗報告をしていました。それに対してお返事をいただくという感じでした。

(山岡委員長) ご発表を聞いてすごくうまく連携がとれているんだろうなと想像したのでお聞きした次第です。

(坂井副委員長) 発表ありがとうございました。

非常にうまく連携がとれて事業が進められていると思いましたが、報告があったかもしれないんですが、実際参加された方は皆さん居場所を立ち上げているという理解でいいんですか。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 今実際に立ち上がったかというのと、まだそれはゼロなんですけど、具体的に動き始めている方が4名います。年明けぐらいには1つぐらい動くんじゃないかなという感じで、そこも今サポートしているところです。

(関野委員) 発表お疲れさまでした。

1回目、2回目、18人、20人というのは、私の印象としてはすごく集まったなと思っています。ただ、居場所をつくることを考えられている人がどこまでいるかなというのが結構不透明だったので、そういう印象だったんですけども、2年目以降に同じ方

法でアプローチして、同じように集まるかなというところの見通しは何となくありますかね。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 実は来年度の3期、4期、まだ日程も場所も決まっていないのに申し込み何件か入っているんですね。それぐらいやはり関心が高い。今すぐ開くというよりは、いつかやりたいという方がすごく多いんだなと思います。

なので、とにかく関心のあるそのような方にお話を聞いていただいて、実際に居場所をふやす。もしくは既にある居場所にサポートで入るような形をうまくつくっていったらなと思っています。世代交代が必要だという話を聞く居場所もあるので、その辺ともうまくつなげられたらなとは思っているところです。

(山岡委員長) それでは、大体時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

以上で協働コースの全団体の報告が終了いたしました。

ここで協働コーディネーターの手塚さんよりコメントを頂戴したいと思います。よろしくをお願いします。

(協働コーディネーター) 皆様、お疲れさまでした。本当に順調に進んでいるようで、とてもよかったなと思います。1つずつメモをとりましたので、それを皆さんに発表したいと思います。

まず最初、laule'aさんと食育ラボさんの協働ですが、今、医療的ケア児への支援というのは、始めたころに比べると大分進んできていて、保育園なんかも随分入りやすくなったり、支援金が出たりというようなことを耳にするようになりました。

ただ、食事に関しては、まだまだ制度的にもなかなか難しいということもあって、なおかつ、今回のようなハレの日というイベント的なものに関しては、公的な支援を受ける、受けないというところは、かなりハードルが高いだろう。そこにチャレンジしている皆さんの心意気は、私はすごく受けとめています。

今後ですが、申請時の資料を読ませていただいたら、3年後に向けてというところでは、「両者にとって無理のない範囲で」というふうにしっかり書いてある。それはやはり当事者にとっても無理がないようにということもあるし、今回、両者にとってチャレンジだったと思うので、それは続ける必要があるかどうか1回立ちどまって考えてもいい協働事業だったのかもしれないと私は考えています。

正直言うと、今後もちろん進めていただきたいです。でも、それが両方の団体さん

にとって少し背伸びをして、少し足がつりそうだというのであれば、1回かかとおろしていただいて、もう一度どこから始めたらいいか。

先ほど理事長さんでしたか、お弁当も同じメニューで15段階に分けたという話がありました。もしかしたらそれならばまたそこから始めていただく。ハレの日というのはとてもいい活動だと私は思っています。ですので、そこへもう一度上るスケジュールをしっかりと立てていただくのも一つかなと思っています。

例えば協働コースの「協働に関する確認書」を見ても、両方とも評価が3なんです。「評価の基準」が、4が「十分できた」、3が「できた」。私としてはこれは少し控え目だったかな。特に民民の活動であれば、全力を上げてやっていた姿を私たちも見ているので、しっかりと自己評価もしていただいた上で、この事業の成果報告につなげていただけたらなと思いました。よろしく願いをいたします。

それから、地域起業セミナーさんですが、こちら実評価がオール3なんです。実は民民の活動は、行政との活動に比べると、外から見えにくいというのがあるのですが、それでも両者とも力の限りやっていたということはこの評価にもあらわれるはずで、例えば「対等な立場で事業実施ができていますか」は多分4なんです。十分できているからこれができていると思うのです。その辺もしっかりやっているよねというのをお互いに確認していただくのがいいのかなと感じています。

起業セミナーは意欲のある人たちが20人、18人と集まっていたいて、藤沢でやりたいと思う人の思いをどんどん形にさせていただけたことは、藤沢市にとってもとてもいい事業だったと思いますし、協働の効果も十分出ていると私は思っています。

ただ、次のステージに上がるときに、最初のものを見ると、地域活性化事業に少しアプローチできないかとか、藤沢市への予算化のアプローチができないかみたいなことも書いてあったので、最終のときまでには、そこへもちょっとだけリーチをかけていただけると、なおよろしいかなと思いました。

最後に、ことし1年目でやられているスタートアップサポート事業、れいんぼ〜かふえさんですが、こちらの評価を見ると、4が並んでいます。私たち協働コーディネーターも毎月のサポートには入らせていただいています。やはり両者の会話の仕方が、本当にお互いに自分たちの思いをしっかりと伝えているという姿を見させていただいています。評価は妥当だと思って見えています。ですから、そこは引き続きつなげていただきたい。

藤沢には、いつかやりたい人がたくさんいます。その人たちにいつかできるような知恵をしっかりと授けていただきたい。藤沢の町の中で、子育て支援について、週1回の事業所が20カ所あるよ、40カ所あるよということになると、毎日いろんなところに行ける。そういう無理のない展開ができるような優しいアプローチを今後も続けていただけたらとてもうれしいです。

それから、子育て企画課さんも本当に毎月以上にしっかりとアテンドしていただいて、いろんな悩みも解決していただけているから、これだけの評価がお互いに出ているんだろうと思いますので、次年度も引き続きどうぞよろしく願いをいたします。

私からは以上です。

堀と一緒に相談して私から報告しました。長くなってしまうといけないので、ここまでにします。

(山岡委員長) ありがとうございます。

それでは、この後の意見交換について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 事務局よりご説明いたします。

団体及び市民活動推進委員会の委員による意見交換を行っていただきます。本日の趣旨は、きちんと事業の成果が出るように、また達成できるようにするための意見交換となります。それぞれのテーブルの進行は山岡委員長、坂井副委員長と関野委員をお願いいたします。時間はおおむね25分から30分間とし、午後4時35分ごろまでを予定しております。

事務局からは以上です。

(山岡委員長) それでは、意見交換を開始します。それぞれのテーブルで進めてください。35分までということですので、よろしく願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

協働コース

グループ別 意見交換

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員からの講評

(山岡委員長) よろしいですかね。途中で話の腰を折ってしまうようで申しわけありま

せんが、お時間になりましたので、意見交換の時間を終了いたします。

それでは、各テーブルの進行をしていただいた委員から、意見交換の内容について、1分程度で簡単にご報告をお願いいたします。

私はこちらのテーブルから報告いたします。

いろいろ話をしたので、あまり整理できてないのですが、1つは、ミライカナエル事業の協働事業としては今年度いっぱいということで、その後どうしていきましょうかというお話です。

先ほどの質疑なども踏まえて、もちろん嚙下に障がいのある方に対して食事をしてもらう会をやるということはまず第1ですけれども、今後のことを考えたときに、飲食店の方にもアプローチをして、日曜日の昼ということであれば、来てもらえるかもしれない。そういうアプローチをしてもいいかもしれない。あるいは、やっていく場所として、もちろん飲食店で、最終的には常設ということも目指したいですけれども、当面は、年に1回でも2回でもできるところでやっていく。そういうところを探っていけるといい。場所としても、飲食店だけではなくて、例えば高齢者施設みたいなところも活用できるかもしれないねという可能性の話をしました。

それから、この事業はミライカナエルの民間同士の協働の1つのモデルケース的なものではないかと私個人的には思っております。ミライカナエル活動サポート事業が始まってから何年もたっていませんので、協働の仕方とか、ただ成果だけではなくて、どうしてうまくいったのかとか、そういうことも含めて情報発信していけるといいですねというお話をしました。

また、食育ラボさんと laule' a さんは、実は協働事業を始めるということを決めてからパートナーを探したわけではなくて、もともとつながりがあり、その中で、課題意識を共有し、協働事業を利用した。こういう流れは協働をうまく進める上ではすごく重要なかもしれないということもお話をしました。

あと、協働事業として上がった成果だけではなくて、協働事業に取り組んだことで、お互いの事業に対しても波及効果があったということで、これもミライカナエルとしてはすごくうれしい話だなと思いつながりながらお聞きをしました。

雑駁ですが、以上です。

それでは次に、坂井副委員長、お願いします。

(坂井副委員長) 関内イノベーションイニシアティブさんとフジマニパブリッシングさん

という両方とも会社同士の協働事業の2年目ということです。起業人材を育てる、一言で言えばそういう取り組みですけれども、もう既に1年目の受講者で起業している人もいるというのは、そこまでいったのかというのは私も驚きました。そういう意味では、事業の成果が着々と出ているのかなというふうにも思います。

また、起業までいかななくても、将来、地域のために何かしたいなという人を育てるということも意味があることなので、そういうところも意識しながら取り組まれているということでした。

それから、2年目なので補助金のほうはここで終わってしまうんですけども、その後の資金繰りはどうなのかということです。金融機関等にアプローチをしておられて、事業面での協力は得られつつあるんだけど、お金ということになると、もう一歩ハードルが高いのかなということで、そこら辺は課題である。

そういった中で、この事業の売りは何か。起業セミナーはほかでもやっているの、そこの違いをきちんと出していったほうがいいんじゃないかという話とか、あと協賛する側にメリットが感じられるようなものの整理の仕方というんでしょうかね。1つ言ったのは、SDGsを取り入れられないでしょうか。要するに、誰一人取り残さないとか、何度でも再チャレンジできる社会とか、地域力の強化とか、そういった価値をうまく取り込んで、協賛者が自分たちはそういう取り組みを応援しているんだと胸を張れるようなものにしていったらいいんじゃないかという話もしました。

それと、藤沢と横浜というふうに協働事業者が離れているんですけども、その辺は通信手段も使いながら円滑にいつているということです。あと、同じ会社同士ですけども、両者の持ち味が違うので、そこがうまく組み合って、この協働事業が円滑に進められているというところを感じました。

(山岡委員長) それでは続いて、関野委員、お願いします。

(関野委員) こちらのテーブルは子どもの居場所スタートアップサポート事業ということです。先ほど協働コーディネーターからも指摘があったんですが、「協働に関する確認書」の評価が大分4で埋まっているということです。1個だけ「対等な立場で事業実施ができていますか」の子育て企画課さんの評価が3でしたので、理由は何かという質問があったんですけども、もっとできたんじゃないかというなかなか前向きな理由でしたので、お話を伺っていても、関係性構築も含めて、全体的にうまく進められているのかなという印象を受けました。

プロセス的な部分というよりも、話題の中では、プログラムの中身とか、参加者の属性とか、やりたいことに関する質問等が多く出ました。プログラム自体に関しては、現状で市外の参加も結構いらっしゃる。この助成金自体の趣旨として、3年後以降を見て、やはりオンラインとか、プログラムも普遍化といいますか、一般化して広げていきたいということをおっしゃっています。そこら辺でアフターケアをどうするかというところについても、現状で参加者の属性といいますか、やりたいことが結構多彩になっているので、子育て企画課さんの関係ばかりではないものも含めて、いろいろなところの別の担当課さんにもお話を広げていったらどうかみたいなことも考えられているということをおっしゃっていました。

このぐらいで以上です。

(山岡委員長) 関野委員、ありがとうございました。

以上で意見交換を終了いたします。

進行を事務局へお返しいたします。

(事務局) 皆様、ありがとうございました。

それでは、協働コースの中間報告会全体を通しての講評を坂井副委員長からお願いいたします。

(坂井副委員長) 3団体の皆様、きょうはお疲れさまでした。ありがとうございました。

プレゼンテーションも、その後の意見交換も、3グループで1団体ずつということだったので、じっくりお話ができたのかなと思います。

それぞれの事業の状況は今発表いただいたとおりでと思うんですけども、協働事業なので、協働のプロセスがどれだけ機能したかということがとても大事なポイントだろうと思います。民民と公民とあったんですけども、今回お話を聞いた限りでは、どれもかなりうまくいったんじゃないでしょうかというのが私の印象でした。

これは多分協働コーディネーターさんの働きも相当あったんじゃないかと思いますが、要するに、複数の団体や会社が目的なり目標を共有して、お互いの持ち味を生かして、力を合わせて相乗効果を発揮していく、そういうものが協働事業の眼目かと思いますが、それぞれの事業においてそれが感じられたと思います。

民民の場合も、持ち味の違う団体同士が組んでいるのですね。だからよかったのかなと思います。

公民の場合、もちろん立場も違いますけれども、これもお話を聞く限りにおいて、

市の目標、意識と、団体の達成目標がほぼ完全に一致していた。ですから、お互いの立場から力を合わせて非常にうまく進められているのではないかと思います。

協働事業は1年目、2年目とありますけれども、どこかの時点で必ずきちんと振り返りをさせていただく。協働がうまくできたのかどうか、事業の成果、ニーズはあったのかとか、取り組みの仕方ももっといい方法があったかどうかとか、いろいろ検証していただいて、その次の自立というところにしっかりつないでいくことも大事だろうと思います。きょうの3団体は皆さんそれぞれすばらしかったと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 坂井副委員長、ありがとうございました。

皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。以上で本日の中間報告会は終了となります。お疲れさまでございました。

団体の皆様におかれましては、活発な意見交換がされ、今後の事業への反映もされるかと思いますが、支出等の計画に変更が生じる場合は、必ず事前に事務局へご相談いただきますようお願いいたします。

○事務局から休憩と再開時間について連絡がされた。

[団体退出]

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後4時46分 休憩

午後4時54分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(3) 令和6年度ミライカナエル活動サポート事業について

○事務局より、令和6年度ミライカナエル活動サポート事業について、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、ただいまの事務局の説明についてご意見や確認しておきたいことはございますでしょうか。

(森田委員) 一番最後の点で確認なんですけど、採択の必須条件で平均得点2点以上というのと、今おっしゃっていただいた全委員が2点以上つけなければいけないというのは、

ちょっとニュアンスが違うと思うんですけども、どちらが正しいのでしょうか。

(事務局) おっしゃるとおりです。こちらは平均得点2点以上になりますので、もし1点をつけた委員が1人いらっしゃいませしても、その他の3点、4点で結果として平均得点が2点以上になりましたら、問題ないということにさせていただければと思います。申しわけございません。

(関野委員) 同じところなんですけど、2点の評価が採択に足るという言い方をおっしゃっていたので、念のために1点、2点、3点、4点でそれぞれどういう表現をされているか伺いたいのですが、よろしいでしょうか。

(事務局) 表現の確認というところで、採点表に表記している文言を今確認しようとしているんですけども、端末が立ち上がっていないような形になっておりますので、少々お待ちください。申しわけありません。

(山岡委員長) では、準備ができ次第ということで、ほかに質問があればいかがでしょうか。——よろしいですか。これは1回見て、質問や意見を出して再度なので、ほほいいですか。

私から1点確認です。ステップアップ支援コースで「直近の2年間連続してミライカナエル活動サポート事業の補助を受けていない団体」と書いてありますよね。これは協働コースでは書かなくていいというか、書いてないけれども、それでよかったんではたっけ。

(事務局) そうですね。協働コースは2回連続にはなり得ない。協働コースは審査期間として必ず1年挟みますので、絶対連続にはならないということで、今回入れているのがステップアップ支援コースのみになっております。

(山岡委員長) そうすると、ステップアップ事業の1年目の団体が協働コースに申請するみたいなことはあり得なくはないのでしょうか。

(事務局) ステップアップ事業を1年やったとして、その後、直後に協働コースになったとしても、その次の年に一度審査の年が入ります。かつ協働コースからステップアップ事業に行くとしても、最後の年が結局審査になる。

(山岡委員長) 要するに、同時に申請できないからですね。同じ年に申請できないから1年あくということですね。

(事務局) 同時申請できません。

端末が立ち上がりまして、各採点の何点がどういった表記か確認ができましたので、

お伝えさせていただきます。

1点が「採択には不十分な点がある」、2点が「採択に足りる」、3点が「良い」、4点が「非常に良い」という配点になっております。

(関野委員) 「足りる」というのは、本当に足りるというぎりぎりのイメージですかね。

(事務局) 不十分な点がなければというところですね。

(関野委員) わかりました。ありがとうございます。

(山岡委員長) もう一つ確認ですが、協働コースで「営利を目的としない団体」というのが今回入りますよね。要するに、これは株式会社が入らないという解釈ですよね。そうすると、今やっている関内イノベーションイニシアティブの協働事業は、この条件だと、そもそも入らないという理解でいいですか。

(事務局) そうですね。今後につきましては、営利事業同士の協働については、市民活動の支援の枠の中からは外れるような形になります。今後、民民、株式会社同士で来た場合は、対象にはならないという形です。

(山岡委員長) 営利事業同士ではなくて、申請要件が「営利を目的としない団体」だから、株式会社の申請がだめだということですね。

(事務局) おっしゃるとおりです。失礼しました。協働相手として株式会社が上がってきた分には問題ないという形になります。

(山岡委員長) 株式会社が申請で、行政との協働もあり得ないということですね。

(事務局) はい、そうです。

(山岡委員長) わかりました。確認です。

(関野委員) 今ステップアップ支援コースで申請している団体さんから、次に協働コースに申請したいというご意見がありました。それをやろうとすると、さっき委員長がおっしゃっていたように、同時申請ができない関係上、助成金頼りというのも正直どうかという話ですけれども、その団体さんには別の助成金をご紹介しました。そこでこれから盛り上げていきたいというときに、ラグが生じるみたいな話になってくるので、そこがどうかなというのはちょっと考えますけれども、助成金頼りもやはりどうかなというところなので、話があったことだけ一応お伝えしておきます。

(事務局) 連続してやられていきたいというのもあるかと思うのですがけれども、今のお話にあったように、助成金頼みになってしまうのはどうかということと、あと何より協働コースの金額が大分大きく、期間も2年間となりますので、やはり審査期間をしっかりと

設ける必要がありまして、今のスキームを大きく崩すようなことは難しいのかなと考えているところです。

(山岡委員長) では、よろしければ、議題(3)を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(4) その他

(山岡委員長) 最後に、議題(4)「その他」について事務局よりお願いいたします。

(事務局) 事務局より、次回の委員会日程につきましてご説明いたします。

今回は12月16日(土)の午後1時からとなります。議題はミライカナエル活動サポート事業、令和5年度協働コースの三次審査であるヒアリング審査となります。場所は本日と同じく藤沢市役所本庁舎の5階の5-1会議室を予定しております。詳細につきましては、また後日ご案内をいたしますので、ご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車をとめた方は、駐車券を事務局にお渡しください。事務局からは以上です。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして第7回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたりまして大変お疲れさまでした。

午後5時08分 閉会